

# 龍江村誌目次

四、峡谷・氾濫原 21

題字 奥村與象

口絵

龍江地質図

発刊のことば

龍江村誌刊行委員長 塩澤憲治

目次

凡例

写真特集(一) (自然環境・原始・古代・中世・近世関係)

## 第一編 自然環境

第一章 位置・面積	14	8	6	5	1
第二章 地形・地質					
第一節 地球の古い時代の地層や岩石					
一、領家變成岩類	8				
二、花崗岩の時代	10				
第二節 新しい時代の堆積物					
一、巨大礫を含む第三紀宮沢累層	14				
二、伊那谷の初期の地層	17				
三、段丘・段丘堆積物	19				

## 第三章 土 壤

第四章 陸 水	24	24	24	23
第一節 河 川				
第二節 地下水・湧水・飲料水・温泉・鉱泉				

## 第五章 気 候

第一節 気 温	26	26	26	26
第二節 降水量				
第三節 日 照				
第四節 湿 度				
第五節 風				
第六節 積 雪				
第七節 季節の気象現象				
第八節 まとめ				

## 第六章 植 物

第一節 龍江村の植物の四季	32	32	31	30
---------------	----	----	----	----

## 一、木々の芽生え 32

二、春 33

三、夏 35 39

四、秋・冬

## 第二節 社寺・林の特徴からみた龍江村の原植生

考古学的調査

## 第三節 龍江村高等植物目録

考古学的概観

## 第七章 動 物

旧石器時代

## 第一節 鳥 類

縄文時代

## 第一節 鳥 類

弥生時代

## 第一節 鳥 類

古墳時代

## 第一節 鳥 類

歴史時代

## 第二節 両生類・爬虫類

古墳時代

## 第一節 両生類・爬虫類

歴史時代

## 第一節 両生類・爬虫類

古墳時代

## 第一節 昆虫類

歴史時代

## 第一節 昆虫類

古墳時代

## 第一節 昆虫類

歴史時代

## 第一節 昆虫類

古墳時代

## 第一節 昆虫類

歴史時代

## 第二編 原始・古代

### 第一章 考古学よりみた龍江

考古学的調査

考古学的概観

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

### 第二章 龍江の遺跡

一般遺跡

流域の遺跡

段丘面・扇状地面の遺跡

## 第一節 龍江の一般遺跡

流域の遺跡

## 第一節 龍江の流域の遺跡

段丘面・扇状地面の遺跡

## 第一節 龍江の段丘面・扇状地面の遺跡

扇状地面の遺跡

御殿田窯址群

尾林古窯址

まとめ

## 第三編 古代・中世

### 第一章 古代

第一節 古墳時代の文献による伊那谷

117

第二節 仏教伝来と飛鳥文化

117

一、善光寺の由来

118

二、聖德太子と輸入文化

119

第三節 大化の改新政治の波及

119

一、今田の口分田跡

120

二、租税制度

120

121

三、中央官庁と駅制

121

121

四、白村江の海戦で日本海軍大敗し交友国百済は唐に降る

121

第四節 万葉仮名の成立と文字文化の発展

121

第五節 中央集権政治の変質と崩壊

121

第六節 荘園の発展

123

一、伊那谷平安時代の貴重な文化財

123

二、天皇制の変化

123

### 第二章 中世の龍江

第一節 鎌倉幕府の成立と下伊那

125

124

## 第二編 守護小笠原氏

### 第三節 武田氏の伊那郡侵攻

127

一、武田氏の侵攻

127

二、知久氏輩下の今田氏

128

三、武田氏の下伊那経営

129

第四節 織田氏の伊那郡侵攻

131

一、織田氏の伊那郡侵攻

131

二、徳川家康と旧族の復帰策

132

三、毛利秀頼・京極高知と今田

133

第五節 今田の諸族

131

一、大塔合戦と今田氏

133

二、結城合戦と今田氏

134

三、武田氏による使役と今田氏

135

四、二つの城址

136

五、兎城落去後の今田（桃井）氏

138

六、吉沢新助と三石新左衛門

139

七、今田四騎と吉沢新助

140

八、嶋氏と二木氏

142

九年譜

143

133

131

127

126

# 第四編 近世

## 第一章 支配関係の変遷と村の制度

### 第一節 支配者の変遷

一、支配者の変遷一覧表	148
二、毛利秀頼の再任と京極高知の入郷	149
三、井上淡路守の入郷	150
四、天領の時代	155
五、私領の時代	155

(一) その後の検地	180
二、石盛	182
三、土地永代売買禁止令	182

### 第二節 貢租と課役

一、貢租	184
(一) 年貢	184
(二) 年貢の割付	185
(三) 村貫・貫	189
四、今田村下組貫	190
二、課役	192
(一) 国役	192
(二) 木曾助郷	192

182

### 第二節 村の変遷

一、村に境がなかった頃	156
二、村の変遷一覧表	157
三、伊那郡南山三十六カ村の戸数・人口(安政年間)	157

145

### 第三節 百姓と村役人

一、百姓	158
二、村役人	160
三、五人組	169
四、御觸書(布令書)・請書・村定	170

147

### 第三章 戸口の変化と人口の構成

一、宗門改めと宗門人別改帳	195
二、寺送り・村送り	200

148

### 第四章 産業と経済

#### 第一節 農業

一、耕地	203
二、農業技術	203

202

149

### 第二章 土地制度と貢租課役

#### 第一節 土地制度

178 178

149

#### 第一節 土地制度

178

149

(一) 天正検地	178
二、検地	178

148

(二) 作物	203
(一) 肥料	203
(二) 農具	203

148

148

#### 四 農家の四季 206

##### 三、灌漑

(一) 江戸時代今田の井水(文化元・一八〇四) 207

(二) 龍江の井水(江戸時代) 208

(三) 堀廻足ノ口井仲間と安戸で取り交わした文書 209

209

208

(四) イタチが沢井 209

209

209

(五) 井免および交付金 210

210

210

(六) 井普請後役所へ出した文書 211

211

(七) 樋が沢(後沢・郷司が沢)の井水 211

211

(八) 清水入川の井水 212

212

(九) ため池 214

214

(十) 水車 215

215

(十一) 米川よりの新井計画工事中断 215

215

#### 第二節 養蚕

一、養蚕のはじめ 217

217

#### 第三節 山林

一、日本の養蚕 217

217

#### 第五章 交通・運輸

##### 第一節 道路の開発

一、明和四年の村絵図 219

219

二、天保九年の村絵図 219

219

##### 第二節 脇往還と中馬

220 219

#### 第六章 災害

##### 第一節 洪水と水防

一、洪水等の記録 249

249

二、水害への対処 250

250

##### 第二節 天龍川の川除普請

一、川筋の移動と島畑の形成 252

252

二、川除普請 256

256

##### 第三節 三カ村境界問題

一、宝暦事件 257

257

二、明和事件 257

257

一、道筋と中馬 222

二、秋葉街道 223

三、満島から大津峠越えの道 225

225

##### 第三節 「今田の渡」と通船

一、天龍川と横の交通 228

228

二、今田の渡 228

228

##### 三、舟

231

四、船頭と生活権 235

235

五、楓ノ木渡 242

242

六、通船 243

243

##### 第四節 庶民の旅

246

246

一、道筋と中馬 222

222

二、秋葉街道 223

223

三、満島から大津峠越えの道 225

225

225

## 第四節 飢饉年と備荒貯穀

第一節 紙屋騒動	一、飯田藩の財政の窮乏	266
	二、和紙生産の発展（農民の貨幣経済への動き）	266
	三、紙問屋開設と再開設	268
	四、紙屋騒動	269
	五、裁判にいたる経過	269
	六、裁判	270
	七、御裁許（判決）	276
	八、犠牲者	277
	九、生還者	278
第二節 南山騒動	一、騒動へ向けて	279
	二、舟渡の川原で	279
	三、飯田藩と折衝	283
	四、奉行と対決	286
	五、騒動の後で	287
	六、歎願書	290
	七、要求が通る	291
	八、歎願書の回答	292
	九、江戸への嘆願	293
	十、南山の碑	294
	十一、小前層と伴助	295
第八章 寺子屋	一、寺子屋	304
	二、寺入	304
	三、教具	304
	四、教材	304
	五、天神講	305
	六、束脩	305
	七、師弟の関係	306
	八、下伊那における寺子屋・私塾	306
	九、龍江における寺子屋・私塾	307
	・松尾亨庵	308
	・和算	307
第五編 近代・現代	写真特集(1)（近代・現代・民俗・信仰関係）	311
第一章 地方行政	第一節 戸長役場の成立	323
	一、白川藩領から伊那県へ	325
	二、伊那県から長野県へ	326

## 第三節 山論

一、野池山の争い	298
二、井戸入山の争い	301
三、尾科山の争い	301

第一章 地方行政	第一節 戸長役場の成立	323
	一、白川藩領から伊那県へ	325
	二、伊那県から長野県へ	326
第五編 近代・現代	写真特集(1)（近代・現代・民俗・信仰関係）	311
	一、下伊那における寺子屋・私塾	306
	二、龍江における寺子屋・私塾	307
	・松尾亨庵	308
	・和算	307
第八章 寺子屋	一、寺子屋	304
	二、寺入	304
	三、教具	304
	四、教材	304
	五、天神講	305
	六、束脩	305
	七、師弟の関係	306
	八、下伊那における寺子屋・私塾	306
	九、龍江における寺子屋・私塾	307
	・松尾亨庵	308
	・和算	307
第二節 南山騒動	一、騒動へ向けて	279
	二、舟渡の川原で	279
	三、飯田藩と折衝	283
	四、奉行と対決	286
	五、騒動の後で	287
	六、歎願書	290
	七、要求が通る	291
	八、歎願書の回答	292
	九、江戸への嘆願	293
	十、南山の碑	294
	十一、小前層と伴助	295
第七章 騒動・山論	一、飯田藩の財政の窮乏	266
	二、和紙生産の発展（農民の貨幣経済への動き）	266
	三、紙問屋開設と再開設	268
	四、紙屋騒動	269
	五、裁判にいたる経過	269
	六、裁判	270
	七、御裁許（判決）	276
	八、犠牲者	277
	九、生還者	278

三、戸籍区の設置	327	三、地方自治と村長公選制	356
四、大区・小区の成立	328	四、地方自治改正の内容	357
五、龍江村の誕生	330	五、村政機構	357
		六、新しい村づくり	358
第六節 戦後の村政	333	七、役場新庁舎の建設	361
一、終戦と村民の生活	333	八、町村合併	362
二、婦人に選挙権ができる	356		
		第七節 水禍との闘い	368
第五節 昭和期の村政	342	一、天龍川電源開発の背景	368
一、経済恐慌と村政	348	二、天龍川水利権問題と地域の動き	368
二、不況克服への努力	348	三、泰阜ダム出現と水害並びに治水問題	368
三、國家総動員態勢への道	350	四、その後の水害と諸問題	371
		五、県泰阜ダム対策審議会発足	371
第四節 大正期の村政	340	六、三六災害と治水問題	372
一、町村制	340	七、六十年水利権更新と恒久治水対策	376
二、町村制の発足	341	八、天龍川恒久治水事業始まる	377
第八節 財政の変遷	342		
一、町村制施行以前の村財政	379		
二、明治期・町村制施行後の財政	380		
三、大正期の財政	382		
四、昭和期の財政	383		
五、戦後の財政	385		
六、臨時費	386		
第六節 戦後の村政	355		
一、終戦と村民の生活	355		
二、婦人に選挙権ができる	356		

三、戸籍区の設置	327	三、地方自治と村長公選制	356
四、大区・小区の成立	328	四、地方自治改正の内容	357
五、龍江村の誕生	330	五、村政機構	357
		六、新しい村づくり	358
第六節 戦後の村政	333	七、役場新庁舎の建設	361
一、終戦と村民の生活	333	八、町村合併	362
二、婦人に選挙権ができる	356		
		第七節 水禍との闘い	368
第五節 昭和期の村政	342	一、天龍川電源開発の背景	368
一、経済恐慌と村政	348	二、天龍川水利権問題と地域の動き	368
二、不況克服への努力	348	三、泰阜ダム出現と水害並びに治水問題	368
三、國家総動員態勢への道	350	四、その後の水害と諸問題	371
		五、県泰阜ダム対策審議会発足	371
第四節 大正期の村政	340	六、三六災害と治水問題	372
一、町村制	340	七、六十年水利権更新と恒久治水対策	376
二、町村制の発足	341	八、天龍川恒久治水事業始まる	377
第八節 財政の変遷	342		
一、町村制施行以前の村財政	379		
二、明治期・町村制施行後の財政	380		
三、大正期の財政	382		
四、昭和期の財政	383		
五、戦後の財政	385		
六、臨時費	386		
第六節 戦後の村政	355		
一、終戦と村民の生活	355		
二、婦人に選挙権ができる	356		

## 第二章 産業・経済

第一節 農業	389	388
一、灌漑用水	389	
二、農業の移り変わり		
三、養蚕と製糸業	413	399
五、農業協同組合		
第二節 紙漉き	424	
一、日本に伝えられた紙	424	
二、信濃国の紙漉きの始まり		
三、龍江村の紙漉きの始まり		
四、元結・晒紙	425	
五、断髪令と晒紙	426	
六、紙仲仕	427	
七、障子紙と改良漉き法		
八、和紙と洋紙	428	
九、戦時下の紙漉き	428	
十、自由経済下の紙漉き	428	
第三節 烹業	429	
一、東燒	429	
二、尾林燒	430	
三、天龍峽燒	432	
第四節 農業諸団体の変遷	433	
一、勧業会		
二、農業会	433	

## 第三章 交通・運輸・通信

第五節 商工業	436	
一、商工業の変遷		
二、業種	438	
三、金融機関	439	
第一節 道路・渡船・橋梁	424	
一、道路	441	
(一) 伊那谷の街道	441	
(二) 「七道開鑿」と伊那谷の道路		
(三) 明治初期の村の道路	443	
(四) 村道改修事業始まる	445	
(五) 枢要道路(県道)と改修の変遷		
(六) 飯田市合併前の主な村道	454	
(七) 市道	456	
二、渡船		
三、橋梁	458	
(一) 天龍橋	457	
(二) 姑射橋		
(三) つづじ橋	460	
(四) 天伯橋(中橋)	462	
第三章 交通・運輸・通信	441	
一、農業会	434	
五、農業協同組合	435	
三、産業組合		
四、農業会	434	
五、農業協同組合	435	
三、産業組合		
四、農業会	434	
五、農業協同組合	435	

## 第二節 運 輸

飯田市消防組織機構改正 479

.....

一、人力車と自転車 463

二、運送馬車 463

三、乗合馬車 464

四、自動車 465

五、鉄道 467

六、天龍川の通船 468

463

## 第三節 通 信

.....

一、下伊那の郵便業務の始まり 471

二、龍江郵便局 471

三、有線放送 473

471

471

463

## 第四章 治 安・消 防

.....

### 第一節 警察（駐在所）

.....

### 第二節 消防団

.....

沿革 475

龍江消防組設立 475

防護団 476

警防団 476

戦後の消防団 476

自衛消防隊生まるる 477

消防団の事故 477

消防後援会 478

475

474

474

471

463

## 第五章 兵 事

.....

### 第一節 徴兵令と兵役

.....

一、徵兵令と兵役 481

二、徵兵の実態と召集 482

### 第二節 事変と戦争

.....

一、日清戦争 483

二、日露戦争 483

三、日中戦争・太平洋戦争 484

.....

### 第三節 戦歿者の記録

.....

## 第六章 保 健 衛 生

.....

### 第一節 保 健 衛 生

.....

### 第四節 兵事諸団体

.....

一、軍人援護組織 488

二、兵役優待会

三、銃後奉公会

四、在郷軍人会

五、遺族会

六、招魂碑建立

488

488

488

484

483

481

### 第一節 保 健 衛 生

.....

### 二、明治中期までの保健衛生状況

.....

491

491

488

484

483

481

481

二、伝染病と予防対策	492	二、新教育制度の発足	517
三、地区（村）外で活躍した人	495	第五節 青年教育	522
四、国民健康保険組合	495	一、温習科・補習科・実業補習学校	522
六、戦後の国民健康保険	496	二、青年訓練所	522
七、肥溜設置条例	496	三、青年学校	523
八、母子健康センタ	497		
		第六節 戦後の青年教育	525
		一、下伊那農業高等学校定時制竜峠分校	525
		二、龍峠高等学園	526
		三、青年学級	526
第七章 教育と文化	497	第七節 社会教育	529
第一節 近代教育の胎動と郷学校	502	一、青年会	529
一、郷学校の設立	502	二、婦人会	536
二、県下の状況	502	三、公民館活動	541
第二節 学制発布と学校創立	503	第八節 文芸活動	529
一、戸籍区から行政区へ	503	一、俳句	547
二、学区の画定と講学会所の設立	503	二、短歌	554
		絵画	558
第三節 学校行政の変遷	504		
一、学制発布と小学教訓	504		
二、学校統合と教育勅語	504		
三、将棋居居撲	560		
四、芝居	559		
五、将棋	563		
六、芝居	559		
七、将棋	563		
八、芝居	559		
九、将棋	559		

## 第八章 名勝地天龍峽

第一節 天龍峽命名の由来	566
二、命名の由来	566
二、遊天龍峽記	566
第二節 天龍峽 十勝	567
第三節 名勝地指定への経過と保存組織	568
一、景勝地選挙と天龍峽	568
二、名勝地指定	569
三、景勝地保存維持の組織	570
第四節 来峽の人々と舟下り	571
第五節 歌謡と碑	571
天龍峽の歌	575
龍峽小唄	575
天龍下れば	576
石碑	576
第六節 今村公園と席亭	576
一、今村公園	576
二、席亭	576

## 第六編 民俗・信仰

第一章 村内の神社・寺院等	581
第一節 神社	581
春日神社	581
大宮八幡宮	581
神明社	582
和世田社	582
八幡社（舟久保八幡社）	582
八王子社	583
白山社	583
浅間社	584
富士浅間神社	584
諏訪社	584
第二節 寺院・堂・庵等	585
蒼龍山 保寿寺	585
陽徳山 東照寺	586
東陽山 定繼寺	587
医王山 大願寺	588
堂庵	588
第二章 民間信仰	591
第一節 除厄・防災・招福	591
一、三峯山信仰	591

### 二、才ノ神

591

### 三、天伯神信仰

591

### 四、富士山信仰

592

### 五、地藏信仰

592

### 六、秋葉信仰

592

### 七、庚申信仰

593

### 八、山住信仰と屋敷神

595

### 九、觀音信仰と巡拝・花祭り

597

### 十、事の神送り

600

### 十一、雨乞い

601

## 第二節 講

### 第三節 曆と干支

602

#### 一、二十四節氣

603

#### 二、干 支

604

#### 三、方位・時刻・月齢

605

#### 四、年齢と年祝・厄年

606

## 第四章 今田人形芝居

### 第一節 伊那谷人形芝居の発祥

607

### 第二節 今田人形芝居

617

### 第一節 伊那谷人形芝居の発祥

617

## 第二節 今田人形芝居

618

### 第三節 淡路人形遣いと今田人形芝居

619

## 第四節 今田人形芝居と村人の情熱

621

### 一、天保の緊縮政策と今田人形芝居

621

### 二、鑑札制度と大正期までの今田人形芝居

622

## 第五節 戦後の今田人形芝居

623

### 第六節 人形の首と上演外題

624

## 第五章 龍江の地名

625

## 第六章 方言

626

### 一、生活方言

627

### 二、方言の語源

628

### 三、方言の言語学的分析

629

### 龍江かるた

630

### 歴代戸長・村長

631

### 年表

632

### 編集後記

633

### 年表

634

### 歴代戸長・村長

635

### 編集後記

636

### 年表

637

### 歴代戸長・村長

638

### 編集後記

639

### 年表

640

### 歴代戸長・村長

641

### 編集後記

642

### 年表

643

### 歴代戸長・村長

644

### 編集後記

645

### 年表

646

### 歴代戸長・村長

647

### 編集後記

648

### 年表

649

### 歴代戸長・村長

650

### 編集後記

651

### 年表

652

### 歴代戸長・村長

653

### 編集後記

654

### 年表

655

### 歴代戸長・村長

656

### 編集後記

657

### 年表

658

### 歴代戸長・村長

659

### 編集後記

660

### 年表

661

### 歴代戸長・村長

662

### 編集後記

663

### 年表

664

### 歴代戸長・村長

665

### 編集後記

666

### 年表

667